

構造改革徹底推進会合（第1会合：イノベーション第1回会合）進め方メモ

平成28年11月2日

副会長 橋本 和仁

1. 問題意識

日本再興戦略も4回の策定を数え、イノベーション・ナショナルシステムの構築をはじめとした、多くの構造改革方策が示され実行段階に移行している。本構造改革徹底推進会合においては、イノベーション・ナショナルシステムの構築の現状の確認とさらなる課題の整理を行っていききたい。

イノベーション・ナショナルシステムとは、国、大学、民間の研究開発機関が、それぞれの持ち味を十分に活かしながらも目的を共有し、人材や、知財、及び資金が有機的に交流する産官学のドリームチームが編成されることで、世界とのフロンティア開拓競争に打ち勝って新たな成長分野を創り出していくための国としての科学技術イノベーション体制を意味している。

そのためには基盤となる大学・研究機関の強化が図られ、そこに民間からの投資が活発に行われるようになることが肝要である。

本会合では、これらの前提を再度確認した上で、全体を一貫とした系としてみた場合、改革が進捗しているかのみならず、その成果が意図した結果を生んでいるのか、対応が不十分な場合は新たに何をすべきかを総ざらいし、次回以降の個別論点に移る前に全体を俯瞰する。

2. 具体的な確認事項

(1) ヒアリング項目

- ・大学改革（国立大学経営力戦略、指定国立、卓越大学院、卓越研究員等）の進捗
- ・研究機関改革（橋渡し機能強化、特定研発等）の進捗
- ・人材交流、流動化の仕組み導入（クロスアポイントメント制度の活用など）の進捗状況
- ・ベンチャー創出環境整備の進捗状況
- ・民間投資拡大に向けての障害の撤廃

(裏面へ続く)

(2) チェックすべき観点

- ・現在の取組は改革の方向性にあっているか？
- ・グローバルな視点をもって改革が進んでいるか？
- ・地域の大学、研究機関にも目が向いているか？
(世界を相手に競争力を有する特長への重点化、地域イノベーションへの貢献ができているか)
- ・大学における新分野開拓や分野融合を加速するための具体的方策は何か？
(工学教育、附置研)
- ・国際的人材獲得競争に勝つための具体的方策がとられているか？
(特に戦略分野での世界トップノッチ研究者(チーム)の受け入れ体制
優れた報酬・研究環境や家族を含めたパーソナルサポートを用意できているか)
- ・投資拡大に向けての産学官の課題の共有は進捗しているのか？
(組織体制の整備、経営人材の育成、財務透明化、コスト明確化、投資を促すインセンティブ等は十分か)
- ・休眠特許の掘り起こしなど知的財産戦略は十分か？